

旅の季節がやってきた。旅はよく人生に例えられる。
時を過ごすにつれて見える景色が変わり、多くのひとびとと出会い、そして別れる……。
喜びが多いほうがありがたいが、悲しみもまた避けることはできない。
しかし私たちはいつも“旅”に駆られていくのだ。

アップルの創業者、故スティーブ・ジョブズ氏は言った、
「旅の過程にこそ価値がある」——と。

ならば、旅の過程を快適に、旅の思い出をハッピーにできる道具を探そうじゃないか、
ということでL(レザー)、S(シルバー)、D(デニム)のマテリアルのなかから、
旅を彩るモノ、いくつもの旅をともにできるモノ、
道程の無事を託すことができるモノなどなど集めてみました。
素敵旅の道具と出会えますように、そしてどうぞよい旅を!

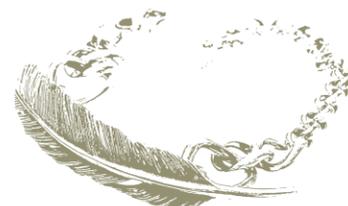
文/本誌編集部、藤原雅士、菅森健吾 写真/油科康司、鶴田智昭、青木健格、齋崎大、渡辺愛、竹本泉 (以上、WPP)、小柳英隆、掲載各ブランド・メーカー
イラストレーション/小柳英隆

旅をともにする愛用の道具を見つけよう!

Have a Nice Trip!

with **LSD**
&
レザー シルバー デニム

どうぞ、
よい旅を!



Pick Up
大人のためのシルバー

スカル チョップスティック
¥16,200
錫は古くから食器などに使用されている素材。エコロジーの観点からマイ箸をもつなら、これくらいエッジの立ったモノもおもしろい。



タコヤキピック
¥97,200
銀線削り出しの串部分にキュービックジルコニアを136個敷き詰めた、妙にエレガンスを感じさせるアイテム。スペイン旅行に携帯、ピンチョスに刺すなどどうでしょう？



スカル ロックグラス
¥59,400
錫90%、ビスマス10%。撮影時にウイスキーのロックをつくったが、オンザロックの冷えが手のひらに伝わり、とてもこころよかった。



撮影協力/POINT-66
④東京都渋谷区渋谷3-15-2
MTエステートビル4F
☎03-3498-6113
https://twitter.com/point_66

SILVER / brass
BURDEN OF PROOF

☎プラチニズム☎03-3831-8717、エマージェセレクト☎03-5913-7408
<http://www.bofp.1997.com>

写真 / 青木健格 (WPP)



たとえば旅先でふらりと寄ったBARや旅館で、バーデンオブブルーフのエッジの効いたアイテムでテーブルを賑やかすのも一興だ。

拳闘家ならではのエッジがブランドの核

拳闘家(元・プロボクサー)の出自をもつ飯田誠司氏が主宰し、デザインも手がける「バーデン オブ ブルーフ」。

プロボクサー時代に見た、マイク・タイソンの胸から下がるクロスのパンダントに射られたことが、その後シルバーアクセサリーの世界に身を投じるきっかけとなる。世界一強い男の「クロスカウンター」は、飯田氏の作品に拳闘の世界を生きた男ならではの潜在的なエッジを植え付け、それが今日にいたる同ブランドの核となり魅力となっている。

バーデン オブ ブルーフの創業は1997年、すでに20年を超えるキャリアを培っているが、当初クロスやスカルのリング、パンダントといった定番アイテムから始まり、「本物」と思えるブランドや人物とのコラボレーションも積極的に行なってきた。先に述べた「エッジ」がより立ってくるのは2015年、飯田氏によると「生前父親が、自分が死んだらその頭蓋骨をモチーフに使ったらどうだ、と聞いてたんです」。この年、葬式で見た父親の頭蓋骨は、ここで紹介するショットグラスやロックグラス、果てはチョップスティックやタコヤキピックという、通常のアクセサリーの軌道からは外れる、アグレッシブな作品の創出の原動力となった。あたかも天界の父上が「当たり前のモノをつくっててもオモシロくないだろ」といわんばかりに。バーデン オブ ブルーフがこれから何をやってくれるか、要チェックだ。

DENIM
京都デニム

☎京都デニム☎075-352-1053
<https://kyoto-denim.com>

江戸時代の“道中財布”をイマ風アレンジ

京小紋染め巻き財布 ¥21,384

江戸時代の“道中財布”をモチーフに、デザインや素材をアップデートして使いやすくしたデニム財布。文様は着物を染める京小紋染めの技法を用いている。型を使ってデニム生地を藍色を柄状染めて抜いている。

[Staff Recommend]

プレス 成田 修さん
「江戸時代の道中財布のモチーフが、旅のおともにピッタリ。薄くコンパクトですが収納力があるので、財布としてはもちろん、スマートフォン(iPhone6plusサイズまで)やパスポートもひとつにまとめられます。バッグ・イン・バッグ、財布、クラッチなど使い方の幅が広くて重宝します」
●私ならココに行きたい!
「香港で昼はショッピング、夜は夜景を見ながらおいしいディナーを満喫したい。香港のお店でこの財布を開く場面を想像すると楽しいです」



DENIM/LEATHER
京都デニム

☎京都デニム☎075-352-1053 <https://kyoto-denim.com>

京都1200年の歴史をデニムトートに表現

京の地図柄デニムトート ¥30,240

1200年の歴史とともに京の町を歩く——をコンセプトに製作されたデニムと本革を使用したトートバッグ。収納力が高く、一泊二日の小旅行などには最適。15インチまでのラップトップPCも入るサイズ感なので普段の仕事でも使いやすいバッグだ。

[Staff Recommend]

プレス 宮本和友さん
「一泊旅行に最適なサイズ感、旅気分をおもえる地図柄……。22ozデニム生地や本革などを使用し、強度にも長けているので荷物が増えても安心して使えます。底には錠が打ってあるので、荷物を入れたとき自立し、バッグの底が汚れないことも旅には嬉しい機能です」
●私ならココに行きたい!
「一泊二日で奈良の吉野山で紅葉を見て、温泉旅館に止まりたい。京都のバッグで奈良に行くのも古い都つながりでいいかも、です」



LEATHER
Makers×Mountain Jam & Co.

メイカーズ×マウンテンジャム&Co.
☎シェイクダウントレーディング☎03-6796-7669 www.shakedowntrading.com

ホースパットを大胆に使用したショルダーバッグ

パットバック各 ¥99,360

P110でもご紹介しているニッポンのシューズブランド「メイカーズ」が靴で使用するホースパットレザーを、フラップから背面までハギを入れずに一枚革で仕立てた贅沢なショルダーバッグ。ホースパット特有の“ウロコ”が全面に見られる。ダブルネーム仕様として両ブランドのタグとキーホルダーが付いている。

[Staff Recommend]

マウンテンジャム&Co. 代表 山崎 剛さん
「もちろん機内にももちこめる大きさなので、財布やパスポートなど、肌身離さず身につけていたいものや、水、サングラス、文庫本など必要に応じて取り出したいものを携行できます。馬革製なので軽くて丈夫、膨らまないのも魅力です」
●私ならココに行きたい!
「今年5月にアメリカ出張にいったときにはとても重宝しました。次に行くならディープサウス・アメリカの風景や文化を見たい。もちろん、ロンドンやパリなどヨーロッパの街並みにもこのバッグはじっくりくると思いますよ」





LEATHER

ANCHOR MILLS

アンカーミルズ

☎アンカーミルズ ☎03-6454-0977 www.vasco-tokyo.com

遊び心とヴィンテージ感に富んだがま口

レザーヴォヤージュバースウォレット ¥27,000

旅先でコインを取り出しやすいように、一般的なものよりもがま口が大きく開く構造。コインケースと紙幣ポケットがセパレート設計になっており、支払いもスマートにできる。19世紀に主流だった、真鍮製のがま口をオリジナルで型から製作したという力作だ。イタリアンレザー“バケッタ”を使用している。

[Staff Recommend]

代表取締役 並木 健さん

「コンパクトウォレットという点、機能性や収納力にもうひとつ満足がいくものが少ないのですが、そのフラストレーションを解消したのがこのモデルです。コインと紙幣の取り出しやすさにこだわり、またヒネリ施錠をはずした内側にはカードポケットもあるので、クレジットカードも収納可。がま口が大きく開くこともポイントです」

●私ならココに行きたい!

「一説には『天空の城 ラピュタ』のモデルといわれている、カンボジア・ベンメリア遺跡に行きたいです。このウォレット、なんとなくマッチするような予感がするのですが……」

LEATHER

MOTO

モト

☎MOTO青山店 ☎03-3407-5836 motostyle.jp

スタイリッシュな足元、旅先の全天候に対応

クロムエクセル サイドゴアブーツ ¥64,800

ホーウィン社クロムエクセルレザーを使用したサイドゴアブーツ。甲にぴったりと張りつくフィット感と、MOTOが独自に開発したクッション性のあるオリジナルインソールにより、長時間着用でも疲れにくい、旅には頼もしいはき心地になっている。

[Staff Recommend]

デザイナー 本池作人さん

「油分の多いクロムエクセルレザーを使用しているので、天候を気にせずにはける点、足元をスタイリッシュに決められ、大人の装いにマッチする点などで旅にはオススメしたいブーツです。インソールにこだわっていますので、長時間はいても足が疲れにくいところも注目していただきたいです」



LEATHER

LUGGAGE TAG GLASS LEATHER

ラゲッジタグガラスレザー

☎ポーター 表参道 ☎03-5464-1766 www.yoshidakaban.com

革のラゲッジタグで自分の持ち物のアイコンに

ショップオリジナル ラゲッジ タグ ガラス レザー ¥4,536

ポーター 表参道、丸の内、大阪と、吉田カバンオフィシャルオンラインストア限定のラゲッジタグ。旅先で預ける荷物の目印としてはもちろん、毎日使用するビジネスバッグに付属しても使用できる。W11×H7.5cm。

[Staff Recommend]

広報 岡田博之さん

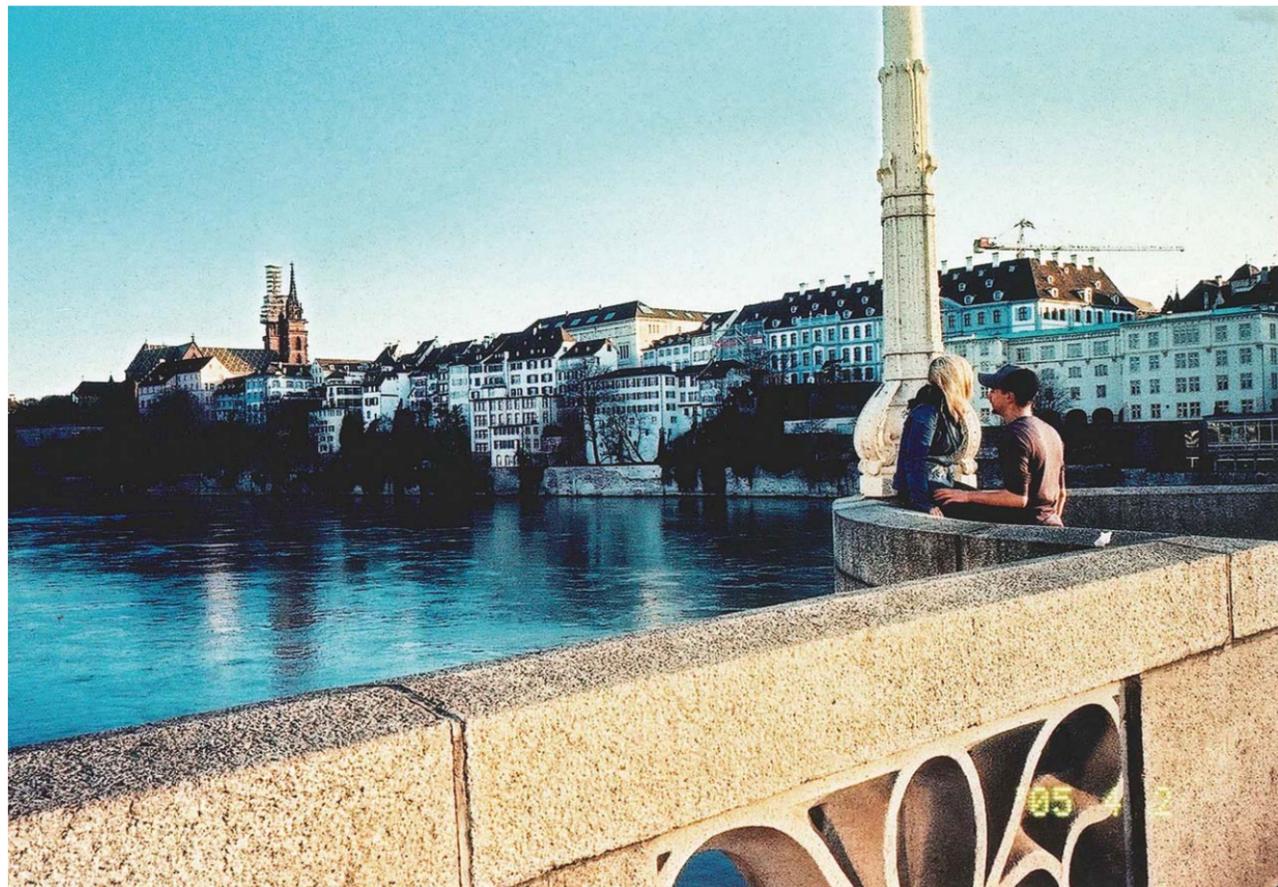
「旅行鞆や普段使いの鞆にもワンポイントとして幅広く使えます。ICカードはもちろん名刺も入るサイズ。特殊レーザー加工によって表現したポーターロゴがデザインのポイントになっています。店舗ではフォントをお選びいただけるイニシャルサービス(有償)も行っており、ギフトなどにもお使いいただけます」

●私ならココに行きたい!

「スーツケースにつけたタグを現地宿で手もちの小ぶりなバッグに付け替えて、バルセロナのサクラダファミリアを観光してみたいですね」



アメリカ・フロリダ州 フォートローダーデールのビーチ
イラストレーション/小柳英隆



スイス・チューリッヒ 写真/竹本泉

イタリア・ヴェネツィア リアルト橋
イラストレーション/小柳英隆



LEATHER
NELD

ネルド

©ネルド ☎03-5829-4733 neld.tokyo

**軽く機能的で、旅で映える
本格レザーアイテム**

リュック ¥39,960 ボディバッグ ¥19,440

リュックは北米原産の姫路レザーで軽量、薄口のソフトヌメの下地を水染め、ベビータッチと軽さを表現している。ボディバッグは兵庫・たつの市、徳永雅信製革所の純国産性ベジタブルタンニンレザーを使用。天然の表情を楽しめる製品となっている。

[Staff Recommend]

NELD プレス 吉伊麻衣子さん

「リュックはレザーながらかなり軽量です。重くなりがちなたんニンなめしにも関わらずナイロン並みでわずか660g! 軽さを追求すると金具やポケットなど機能面を省くことが多いですが、外装にポケット×2、口元にもファスナーで開閉できるなど充実しています。ボディバッグは完全純国産、ショルダーの留め具位置を変え、2ウェイでの使用も可能です」

●私ならココに行きたい!

「シンプルでスタイリッシュなリュックならニューヨークでショッピングなんて楽しいですね。ボディバッグは札幌でラーメンの食べ歩き、なんていかがでしょうか?」

LEATHER

Prairie

プレリー

©プレリー ☎03-5159-2223 www.le-prairies.com

**カラフルなイタリアンレザーで
上質旅気分**

LF小銭入れ ¥6,480 Fカード小銭入れ ¥6,480
ポーチ(大) ¥8,100 ポーチ(小) ¥6,480

旅先で小物を入れるバッグ・イン・バッグとしてのポーチ、ちょっとそこまでコーヒーや新聞を買いに行くときにもって出たい小銭入れなどを、カラフルなイタリアンレザーで提案。堅牢でキズが付きにくく、何より色とりが旅気分をアゲてくれる。

[Staff Recommend]

係長(企画担当) 久保雅嗣さん

「ポーチには予備のモバイルバッテリーやコード類、自撮り棒などをまとめておけば、家族や同行者などとの記念写真対策は万全! また旅先では何かと小銭が必要で、コンパクトウォレットをひとつ準備しておけばスマートに旅を楽しめます」

●私ならココに行きたい!

「日光鬼怒川で紅葉と自然を家族と楽しめたらいいですね」





リングの王国

ガボラトリーが魅せる

指で受け止めるガボラトリーの世界観。いずれも重量級で覚悟のいるしつらえだが、身につけている満足感はずけたものにしかわからない。デザインは種々あるが、やはりリスカルの表情の多彩さに目を見張る。語りかけ、引き込まれるようなマジックが宿っている。



7SENSE Special Collection

参考商品

ナイフ作家およびボールペン作家、中山英俊氏とエングレーパー竹内重利氏の最高峰のスキルが融合した6本のボールペンは7センスでコレクションされている特別なモデル。本誌にて一部を初公開した希少品で発売予定のないモデルでもある。その他販売用モデルはさまざまなモデルを製作しているというので気になる人はチェックしておきたい。

我独尊のコレクションだ。

「7センス」は既存のシルバーアクセサリーとはまったく異なるアプローチ、メソッドで注目されるブランド。それはアートとアクセサリーの究極の融合だ。たとえば、上で紹介しているボールペン。むき出しになったスプリングや大胆な造形……。実際に商品を見ると実に精巧に彫金されていることがわかる。使い古された言い方もしれないが、それはもう美術品の粋に達しているといっても過言ではない。没個性の時代に真っ向から挑む7センスの珠玉のアイテム。畏怖さえ感じさせる唯

オリジナリテイの塊と圧倒的なクオリテイが融合

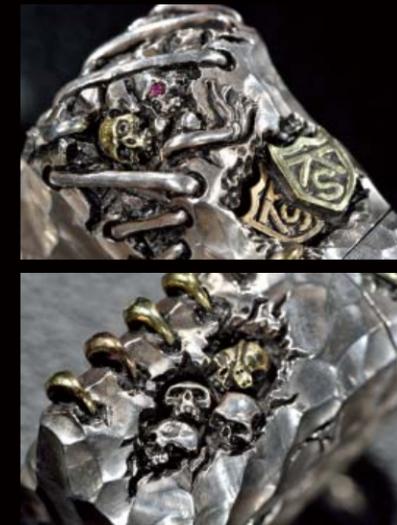
世に溢れるシルバーアクセサリー。そのモチーフはほとんどが同じで、どれも似たり寄ったり。もちろん、ベースがあるデザインだから、それも当然といえば当然だ。これらのアイテムを否定するつもりは毛頭ない。個人が納得できればそれでいいのだから。でも、没個性が叫ばれる昨今、それでいいのか？と思つのも事実。そこで、ひとつのブランドを紹介したい。



ターコイズ(number 8)& TETORI彫金アカンサスシード& ジオラマスカル・バングル

¥513,000

ナンバーエイト・ターコイズのなかでも超希少なブラックウエブをもつターコイズを中央に鎮座。唐草、アカンサスシードを全面に彫り込み、18金グリーンゴールドと、18金イエローゴールドのシールドロゴで構成。



カスタムジッポ
「ターコイズ&ジオラマスカル」

参考商品

完全なワンオフ作品となるカスタムジッポシリーズ。大きなグリーン「Royston」と左側にあるリング、聖杯を財宝とし、右側を財宝の元となる金銀や石の採掘現場を表現。左右真逆の世界観をひとつに表現した珠玉の作品。エングレービングは竹内重利氏が担当。スカルにはそれぞれダイヤ、ルビーが嵌め込まれている。

7センス至高のシルバークリエーション 銀塊彫琢の世界

希少なターコイズやレザーを使用した圧倒的なアイテム群。7センスのアイテムは唯我独尊の輝きをはなち、他とは一線を画する。その核となっているのが圧倒的な彫金スキルに他ならない。ここではそんな7センスの世界感をあますところなく紹介。美術品をも超越するそのオーラの源を確認していこう。

文/藤原雅士 写真/薮崎 大(WPP)



ニッポン人の靴づくり

この特集は東京・表参道の裏通りに構える、

あるレザーグッズショップを訪れた外国人のひと言から始まる。

ヨーロッパ人と思われる若者が店内にディスプレイされた

革靴を手にとり、興味深そうにしげしげと見つめている。

店番に立っていた店主が

「靴はあなたたちの国の方が本場ですよね?」

と尋ねると、青年の目の青さが二層深まり、こういった。

日本人のつくる靴はどこか違うんですよね……。

1980年代以降、我々の足元は今日の流れにつながる

文明開化にさらされる。ナイキ、アディダス、

レッド・ウィングなど、スニーカー、ワークブーツが襲来、

また革靴といえば、それまではサラリーマンの靴だったが、

トリッカーズ、オールデン、チャーチ、ジョン・ロブといった

名だたる黒船たちが、その認識を二変させていくのだ。

憧れとしてこの流れを受け止めた世代は、

あるものは既製品を解体するなど独学で、

あるものは外国に修行に、あるものは

専門学校にと、その憧れの源を確かめようとする。

日本におけるインディペンデント系シューブランドの

端緒である。一方、変化する靴市場の

動向を受けて、メインストリームにある

大手ブランドも高級化、ビスポーク、

機能の追求など、新しいチャレンジや

自社の長所をいかした商品展開に力を入れる。

本特集は冒頭、外国人青年の目に映った

「何かが違うニッポンの靴」、その何かを探り当てるために、

複数の靴職人、靴メーカー、また靴を直したり

磨いたりする方々にも話をうかがいながら探す、

「ニッポン人の靴づくり」に対するオマージュである。

本誌編集部





スコッチグレインの本社工場では若手も大ベテランもキビキビ働く。最新鋭の機械の導入に積極的な分、「繊細なひと手間」にこそ彼らの技能が遺憾なく発揮されている。



底付けが終わり仕上げの工程を待つ靴。ここから色味はまだまだダイナミックに変化していく。



靴の大黒柱、シャンクとクッション役の中物を敷き詰めるところ。後者がコルクではなくスポンジ材なのが他社との大きな違い。



アッパーを木型に沿わせる「つり込み」にはイタリア製最先端マシンを2台活用。すべての木型の情報を瞬時に呼び出し形状を整えていく。

規模や生産量の拡大をむやみに追わず、守るべきを守り、変えるべきを変える

この辺りになると人の手が圧倒的にメインになり、最後はスコッチグレインの人気を確かめかねのにした「モルトドレッシング」。油性クリームとウイスキーで一足一足に個性が与えられるこの工程こそ、手でしか成し得ない作業であり、スコッチウイスキー・タルモアが年間70本も消費されるそうだ。つり込みからここまで約5日、一日当たり480足が同社ではこの本社工場のみで製造される。筆者(飯野)は数年前にもここを訪れているが、当時より各工程が一層スムーズに流れており、清潔な印象

が増しているのが印象に残った。今回の工場見学には廣川雅一社長にお付き添いだただただのスコッチグレインの特徴を語るうえで不可欠な存在は、何を隠そう社長自身である。モルトドレッシング実演会など同社のイベントには必ず社長も参加し顧客と直に接する積極性は、他の靴メーカーの経営者には見られないからだ。「とにかく色々見て、人の話を聞くのが大好きです。そこから次のヒントがたくさん見えてきます」創業者の廣川悟朗のがんばる背中を見て育った社長は、入社して以来営

を引き、内製靴率が極めて高く、底付けもスコッチウイスキー・ウエルテッド製法に一本化し、そして直営店での販売比率が全体の8割と圧倒的に高くなるなど、社長が目指した事業の「集中と選択」が見事なまでに進み、それが高品質な製品に結実している。昨年からのフランスの老舗靴メーカー・J.M.ウエストーンから交換留学生が派遣されるようになったのも、製品・工場として企業として見習うべき点が多いからに他ならない。「父の背中から教わったのは、変えてはいけないところ。例え

業・仕入れそして製造等々すべての業務を密に経験したエキスパート。だからこそ「現場」を直視する大切さを、身をもって知っているのだろう。「以前は棚卸の感覚が社内に希薄で、それを整備するのに苦労しました。アパレル向けのOEMが圧倒的な頃は先方の担当者が交代になった途端に発注が途切れたり...若い頃経験したそんな苦労が、会社をよりよい方向に変えていきたいという原動力です」

今日スコッチグレインはブランドを統一してOEMからは手

本底に刻印されるスタンプ各種。シリーズの違いや革の種類に応じ使いわけている。



かのフランス・J.M.ウエストーン財団から公式派遣された技能研修生。靴づくりでははるかに先輩の伝統国がノウハウを学ぶほど高い品質を有する工場なのだ!



右のような目標管理表が工場のあちこちに掲げられ、ミスや滞りのない作業をサポートする。左はモルトドレッシング工程の前後対比。表情に深みが増した右足が当然、完成形。



かかると一本打つ釘でつり込み時のアッパーと木型とのズレを防ぎ、履き口に張りをもたせる。その跡は丁寧な靴づくりの証だ。



RENDOが挑戦する 「レンド」

既製靴のネクストドア

大手ほどのファクトリーや、成熟した販売網こそもないが、憧れを情熱をもってカタチにし、自分が考える靴づくりへまい進している男たちがいる。東京・浅草にある「RENDO」の吉見鉄平もそのひとり。既製靴の可能性を追求する、その靴づくりへの思いを取材した。

文／飯野高広(靴評論家)、写真／油科康司(取材)、青木健格(WPP)(商品)

7701

RENDOが誕生して以来、看板商品であり続ける大定番の内羽根式ストレートチップ。オーソドックスな顔立ちには主張し過ぎない代わりに履き手に自然と馴染み、文字通り身体の一部になってくれる。

SPEC

■素材：牛革・カーフ ■製法：グッドイヤーウェルト ■ソール：レザーソール ■サイズ展開：5.5~10 (23.5~28.0cm) ■ワイス展開：E ■価格：4万8600円



一般的な日本の紳士靴に比べ、ボールジョイント部の幅は適度にもたせつつも厚みを薄くするとともに一甲部分の抑えは強く設計。かかとの幅も小さめなので、緩急のバランスに優れた履き心地を得られる。

8451

ユーザーからのフィードバックをいかした新設計の木型を用いたのがこちら。よりスマートな印象に進化している。トゥキャップのミシステッチや靴紐などの微妙な変化にも意気込みが感じられる。

SPEC

■素材：牛革・カーフ ■製法：グッドイヤーウェルト ■ソール：レザーソール ■サイズ展開：5.5~10 (23.5~28.0cm) ■ワイス展開：C ■価格：5万2488円



従来の木型より明らかに細くしかも内振りの設計だが、ボールジョイント部はわずかに高く設計。トゥキャップも短くしたのでそこに履きジワが入りにくくなった結果、鏡面磨きが割れるリスクも大幅に減少！

「カッコよくて履き心地抜群の真面目な紳士靴」、そんな評価で近年知名度が一気に上昇中の「RENDO」。ブランドを主宰する吉見鉄平氏の靴との出会いは小

学生の頃に遡る。「最初に本気で好きになったのは、母が父とお揃いで買ったアディダスの黒のスタンスミス。スマートでシブな造形がサッカー少年だった自分

にガツンと来ました」。見ているだけでは満足できず、まずサイズの近い母親のものを内緒で履き始め、成長すると父親のもまた内緒で履くようになったそうだ。

からこそより主体性をもって靴に取り組みたい向上心も次第に湧き出しました。

かったのがRENDOの今日の評価に繋がっているのかもしれない。「このままでは絶対に壁にぶち当たる」「吉見氏は有名なビスポーク職人であり、英国留学時代の先輩でもある柳町弘之氏が主宰する靴学校の門を叩き、バタンナーの仕事をしつつ木型をゼロから徹底

壁一面に靴の入った箱がずらりと並び。採寸した後、ベストサイズがここから選ばれるだけでなく、必要に応じて微調整も行なわれる。

「RENDOの靴は既存の靴ではあまりない形。職人が嫌がる形というか製品としてはつくりにくい形ですわ。彼らと綿密にコミュニケーションを取ることによって形ができた形です」

コミュニケーションと「現場」の大切さに気づけたのが メーカー時代のもっとも大きな財産です

最初の衝撃がインポート・スニーカーであることが1977年生まれの子供らしいところだが、その足で靴の魅力にとりつかれた彼は、中学生になると革靴にも興味をもつ始め、大学在学中に英国の靴学校に留学しその基礎を学ぶことに。そして2002年、有名ブランドのOEM生産で知られるメーカーでバタンナー、つまり基本デザインや木型をもとに型紙を設計する職を得た。「実際に靴はどんな職人がどうつくっているかを日々間近に見れたことは大きな経験でした。だから

より広いビッチを求め2007年に退職、わずか半月後には欧州で活動拠点を移し始めた吉見氏に救いの手を差し伸べたのは、オーストリアとある靴ブランド。契約バタンナーとして年々回渡欧できるチャンスを得たことが独立して仕事をやる契機になった。「常駐や専属ではなかったことが逆に幸運でした。より広い視野で靴に関わることにつながったからです」。

実際、独立直後にバタンナーと木型双方の製作依頼を受けることになる。大定番の木型の雰囲気やなぞって設計したその紳士靴は大ヒットしたが、ここで慢心しな

吉見氏自身が履きたい思いでつくったのが左のUチップ。幅はまだある日本人の足をスマートに見せるべく、タテ感を強調したパターンに。右のダブルモンクもジャケパン姿に合うよう見栄えを熟慮した一足だ。



1980年代の日本企画



1970年代に日本に入ってきた#875(アイリッシュ・セッター・6インチ・モックトゥ)や#777(6インチ・ラウンドトゥ)。その分厚い革、ごついアッパー、厚い白底は当時のファッションリーダーたちの心をとらえた。ただし、ひとつのデザインにひとつの色しかなく、バリエーションに乏しかった。1980年代、日本で、商品の選択肢とブランドの世界を広げるべく、レザーやソールを変えたバージョンが企画された。本国ではすでになくなっていた白底の短靴も改めて企画。これらの多くは現在のラインアップに受け継がれている。

日本が見出した レッド・ウイングらしさ

レッド・ウイングは創業以来110年以上アメリカの自社工場、アンティーク級のミシンなどを使って製造されている。長い歴史が生み出した数々のロングセラーは50、60年変わらぬ姿で今に至っている。古き良き時代のプロダクトを大切に守る、良心的アメリカの靴のお手本のような存在である。しかし、今、我々が目にしている、あるいは愛用している「レッド・ウイングらしさ」が魅力のブーツたちの多くは、日本が1970年代にレッド・ウイングを見出さなかったら存在しなかったものだ。

アメリカでのレッド・ウイングの中核事業「ワークブーツ」は英語では単に「作業靴」の意味。工事現場などで作業員がはく安全靴、作業靴である。その現在のラインアップに、日本で履かれているようなグッドイヤーワエルト製法のレッド・ウイングは、ごくわずかしかない。日本にあるような、歴史的なモデルをベースとした靴をファッション市場に展開する部門は、アメリカでは「ヘリテージ部門」と呼ばれ、中核事業と区別されている。

我々の知るレッド・ウイングは1970年代に日本に入ってきた同社の歴史的ロングセラーをベースに、レザーやソールそれにアッパーパターンを変更して、日本でデザインされたものなのだ。その日本での評価が世界に広がり、同様の商品が世界中で、古き良きアメリカンプロダクトのファンに履かれるようになった。日本が育てたレッド・ウイングである。

RED WING

ニッポン企画で実現した アメリカンワークブーツ

ご存知のとおり、アメリカンブーツであるところのレッド・ウイングだが、本特集「ニッポン人の靴づくり」のなかでは、同社の「日本国内向け企画」に着目してみた。フォーカスしてくださるのは、この企画の当事者、レッド・ウイングジャパンのGM、鈴木理也氏、当時者ならではのインサイドストーリーもご披露いただいた。
文/鈴木理也(レッド・ウイング・ジャパン ゼネラルマネージャー)
写真/青木健格(WPP)、油科康司(WPP)



1995年日本企画として登場した#8179は、発売直後から爆発的な人気を得た。このタイプの靴にブラックレザーを使うことはアメリカではまったく想定外。日本企画でなければあり得なかった名品といえる。

1990年代の日本企画



1990年代、日本の若者たちの間でレッド・ウイングの人气が急上昇する。この時期、白底の6インチブーツ以外にも、エンジニアブーツ、ベコスブーツなど、レッド・ウイングの歴史的モデルのレザーを変えて、イメージを一新する日本企画が数多く世に出される。そのいくつかはロングセラーとして今日まで続く名作となった。

GRAHAM BOOTS

松浦氏が見つけた1942年製のイギリス軍のブーツがインスピレーションの源。さらに古い年代の靴に見られるペロヤカウンターのデザインを取り入れた。イギリスの品格とミリタリーの機能性、耐久性を高次元で融合したブーツ。

SPEC

■素材：Dupuy Saddle Calf
■製法：ハンドソーンウエルト
■ソール：レザー ■サイズ展開：US7.0~14.0 ■ラスト：MR
■価格：12万4200円



GEORGE BOOTS

英国の乗馬靴に由来するジョージブーツを、厚手の手染めラティゴレザーで仕上げた流麗なブーツ。履き込むと美しいエイジングを見せる。足を選ぶデザインだが、パターン修正を繰り返し、より多くの足にフィットするよう改良した。

SPEC

■素材：Wicket&Craig Latigo Leather ■製法：ハンドソーンウエルト ■ソール：O'Sullivan's (Green) ■サイズ展開：US7.0~14.0 ■ラスト：CN ■価格：11万8800円



CLINCH

クリンチ

銅ブラス

☎03-6413-1290

www.brass-tokyo.co.jp

幾多の靴を解体修理して
たどりついた、
独自の靴づくりの境地

東京、世田谷区代田のブーツリペアショップ「BRASS」のオリジナルブランド。各国のさまざまな年代の靴を数多く修理してきたオーナーの松浦氏が、その経験に基づいてつくる靴がCLINCHである。ワークブーツを初めとするアメリカ靴のユーザーが数多く存在し、リペアやカスタムが幅広く行なわれている国、日本だからこそ誕生し得たブランドだ。自ら木型を削り、まず自分や周りの人の足にぴったりと合う靴を、という彼のアプローチはビスポークのそれに近い。つり込みも部分的に手で行なったり、ハンドソーンウエルト製法を採用したり、とあくまで手づくりをベースとし、補助的に機械を使う靴づくりをしている。松浦氏の研ぎ澄まされたセンスがそれらに磨きをかけ、卓越した靴ができていく。

from Brand

「あくまでクラシックがベースですが、日本人が陥りがちな“コピー上手”にならないよう、経験を通して自分のなかから出てきたものを形にしています。正直に仕事をして、100年後も履いていただけのものをつくりたいと思っています。日本人である私がつくるので、日本の靴かもしれませんが、日本を意識せずにベストな靴をつくることだけを考えています」

ENGINEER BOOTS

レアなビンテージも含め、数多くのエンジニアブーツを解体、リペア、カスタムしてきた松浦氏の経験からできあがった、CLINCHのエンジニア。ヴァンテージ独特のディテールを取り入れた、エンジニアブーツのひとつの理想形。

SPEC

■素材：Wicket&Craig Latigo Leather ■製法：ハンドソーンウエルト ■ソール：レザー ■サイズ展開：US7.0~14.0 ■ラスト：CN ■価格：13万5000円



ALTERNATIVE SHOE BRAND

オルタナティブ・シュー・ブランド

[alternative：二者択一の、代わりの、慣習的方法をとらない、新しい]

(weblio英和辞典より抜粋) ……。

確立された大きな販売網や、生産体制、知名度をもつメインストリームやファクトリーブランドに対し、“靴づくり”の情熱は組織の大きさと関係ないばかりに、自身で靴づくりを学び、また自身の足で工場を探し、企画し、デザインしカタチにし、宣伝し、大きくはないが確実にファン層を広げているシュー・ブランド、そんな彼らの靴を「オルタナティブ・シュー・ブランド」と名づけてみた。

文/赤井ツバサ(ワークブーツ研究家)、本誌編集部 写真/青木健格(WPP)

MAST TRAINER

20世紀前半のアスレチックシューズのデザインをベースにした、CLINCH流スニーカー。古き良き時代の靴をモチーフにしながらも現代のスタイルに違和感なくマッチする、考え抜かれたデザイン。ソール交換も可能。

SPEC

■素材：Horween Chromexcel x Waxed Canvas ■製法：ブラックラピッド ■ソール：クレープ ■サイズ展開：US5.0~14.0 ■ラスト：CN ■価格：4万9680円



SKOOB[RODEO] (P113)。